

## 第4回苫小牧市中小企業振興審議会要旨

- 1 日時 平成26年6月25日(水) 13:30～15:50
- 2 場所 職員会館3階 304
- 3 出席

### (1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

川島会長、市古副会長、秋山委員、岩佐委員、鹿毛委員、川村委員、小玉委員、坂本委員、佐藤委員、谷本委員、伴辺委員、林委員、廣澤委員、三澤委員、矢野委員

### (2) 事務局(市)

片原産業経済部次長

商業観光課 : 池田課長、銅主査、畑山主査、安藤主事

工業労政課 : 桜田課長、大津主事

## 4 概要

### (1) 開会

▽会長 : 開会宣言

▼事務局: 事務局職員の交代、ホームページで審議会の結果を公表する旨を報告。

### (2) 議事

#### ①第2回苫小牧市中小企業振興勉強会について(報告)

▽会長 : 第2回苫小牧市中小企業振興勉強会の内容を報告。

苫小牧市での創業の実態を知ること、創業に関する情報の提供の在り方がポイント。

▼事務局: 苫小牧市での創業の実態を説明。

▼事務局: ミラサポについて説明。

#### 【質疑応答】

▽委員 : 創業はどのような分野が多いか。

▽委員 : この1、2年は美容師の開業が多い。  
その前は中古車販売の流れだった。

▽委員 : 法人登記数で起業状況が確認できないか。

▼事務局: 個人事業主での起業が多いため法人登記はデータとして使用できない。

▽委員 : 帯広市商工会議所の創業相談件数の内訳は。農業関連か。

▼事務局: 相談内容の半数以上がサービス業。帯広市と苫小牧市の産業構造では差がないので農業関連は影響していない。

▽委員 : インキュベーター的役割の“北の屋台”を紹介。  
そういった場所があってもいいのでは。

▼事務局: 以前商店街にチャレンジショップがあった。今後空き店舗の利用方法含め検討していきたい。

▽委員 : 空き店舗補助負担に関して整理が必要。

理容業は労働に見合った賃金ではないので独立していくと聞いた。  
商店街の個店数は飲食だけ伸びている。

- ▽委員 : 実験的に店舗を提供する時、業種ごとの適切な立地条件が大切になる。居抜き状態で貸しその後は独立してもらうような設備投資の援助があると起業しやすいのではないか。情報発信に関しては創業支援のページに起業者の情報を入力したら集約された情報が出るような使いやすい検索が必要。
- ▽会長 : 冊子『中小企業振興条例の進展と課題』を紹介。官公需に伴う発注等の情報を議論へ生かせるよう考えていきたい。

② 中小企業者への情報提供について

- ▼事務局 : 情報提供の媒体を説明。
- ▽委員 : 資料『振興施策の効果的な情報提供の在り方について』に基づきコミュニケーションの手段、自治体の SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）活用状況を説明。それぞれの支援機関での情報発信はされているが集約された場所が無く、模索段階である。現行の WEB を生かしながら情報のポータルとして SNS を利用すれば利用者、支援者の双方向でのやり取りができ情報をフィードバックできる。現段階では SNS が有効な手段ではないか。

【意見交換】

- ▽委員 : 苫小牧市の空き店舗情報をもっとわかりやすくしてほしい。
- ▽委員 : SNS は利用者の個人的な相談がオープンになってしまうのでは。
- ▽委員 : クローズドで一对一のやり取りができる。そういったガイドをする必要はある。
- ▽委員 : 車椅子で入れるお店がない。それを目玉にして起業してもいいのでは。
- ▽委員 : そういう商店街作りをしていかななくてはならない時期に来ている。
- ▽委員 : 創業後の支援も必要。
- ▽委員 : 創業後のフォローアップのアナウンスはしているが PR の方法に特効薬がない。現在、事業計画を作ってもらうなどの指導を考えている。
- ▽委員 : 創業した人と支援者の接点がどこにあるかわからない。接点を考えることが重要。
- ▽委員 : 苫小牧市や観光協会のホームページの観光情報でのホテル情報に写真などが無いので詳しいことがわからない。わかりやすいホームページにしてほしい。
- ▼事務局 : 市は公共なので外郭である観光協会のホームページで情報を提供するような形になっている。
- ▼事務局 : ホームページでの空き店舗等の紹介方法は研究していく。
- ▽委員 : 起業者の悩みの性質などニーズの分析が必要。ニーズにマッチングしないと制度、融資など活用されないと思う。経済人に特化した委員会で勉強していきたい。
- ▽委員 : 室蘭は商店街組合連合会の事業として室蘭市役所、商工会議所から単年度双方 400 万円ずつの補助が出ている。

“北の屋台”は協同組合方式で運営し、飲食店は3年間やって独立することを目指している。自己資金がなく開業が難しければ事業協同組合という方法もある。

中央会には北海道労働局の補助事業で無料相談室がある。また官公需の発注情報、落札情報は中央会のホームページにアップしている。そういった制度等あまり知られていない。良い情報提供の手法はないかと悩んでいる。

▽委員 : 商店街の補助事業は来年度以降はどういう形か。

▽委員 : 初年度の実績で左右される。商店街のアーケード補修やLEDライトの設置などの相談がある。数年前から事業者側と行政側とのすり合わせの成果と聞いている。

▼事務局 : 苫小牧市も国補助の申請のサポートを行っている。

▽委員 : パソコンを利用した情報把握も必要だが、人対人で相談にのれる窓口を多く設置すべき。

▽委員 : 中小企業相談所は会員、非会員を差別化していない。催し物の案内は会員さんをベースにしているが広くPRするようにしている。

▽委員 : 障害者の人たちが入れるお店のガイドマップを作成しているが、街なかに障害者の人たちが入れる店がない。そういうところに目を向けてほしい。

▽委員 : 行政のホームページでの助成関係の文言が重たい。SNSについては大賛成だが、熟考して仕掛けを作らないと箱だけ用意して何もならなかったということになると思う。

### ③ 苫小牧市中小企業実態調査について

▼事務局 : 中小企業実態調査について説明。

#### 【質疑応答】

▽委員 : この質問項目でどういう問題を抽出しようとしているのか。個別の記述欄も加えたらどうか。

▼事務局 : 記述だと回答が難しいことがある。審議会には分析した速報値を示したい。

▽委員 : 売上げが増大傾向という人が多ければエガオ含め上向きという方向に分析されるのではないか。

▼事務局 : 調査項目で企業の分類があるため、現在の経済情勢における業種の傾向をつかむことが目的である。3番目以降は政策立案につなげていく目的の調査である。

▽委員 : 94%が従業員数26名以下の小規模事業者である。社内機能の配置状況、施策的支援金制度等の活用については回答できない。中小企業家同友会で半分集める自信はない。悩んでいる中小零細の方が答えられるようなアンケートにできないか。

▼事務局 : 文字で記入せずマルで回答しやすくしているが、発送まで時間があるの

で内容を検討していく。

- ▽委員 : 5年間の売り上げの傾向とあるが、消費税増税前と増税後のことを知りたい。
- ▽委員 : フォーマットについては感想を書く自由記入欄で理由等誘導できるよう工夫すべき。会社概要等、苦小牧らしい聞き方をしてほしい。
- ▽委員 : わかりやすいアンケートにしてほしい。鑑に市の取り組みについてのアピールや相談窓口を記載してはどうか。
- ▽委員 : 郵送の際、中小企業振興条例をアピールしてはどうか。
- ▽委員 : リーフレットを入れてはどうか。

④帯広市の視察について

▼事務局：帯広市の審議会の様子、8月の視察の予定を説明。

(3) その他

▼事務局：Discover nittan Project について説明。

▼事務局：小規模企業振興基本法が国会の審議に通ったため、今後国の振興計画を参考にしながら市として振興計画の策定を検討していく。

▼事務局：次回の審議会は9月を予定。

(4) 閉会